



## 7月25日(木)は ふるさと食材の日「ふらのメロン」!

今年、富良野市東山地区の  
ふらのメロンをお届けします!

JAふらの東山メロン部会 部会長の  
伊藤さんにお話を聞きました!

### 伊藤さんからみなさんへ♪

メロンについて教えてくれた伊藤さんは、「地元のもの食べて育てほしいです」とお話ししてくれました。食べ物には目に見えない栄養や作ってくれた人の思いがたくさんつまっているので、作った人にご感謝して、おいしく食べましょう!



### ～おいしいメロンができるまで～

4月に苗を畑に植えてからメロンが実って出荷されるまでには、約3ヶ月かかります。メロンは雨にぬれると病気になってしまうので、ビニールハウスで育てるなどの工夫が必要です。不要な部分のつるを取り除いたり、摘果したり…すべて手作業で行います。

#### ① 収穫時期によって品種がちがう

メロンは収穫時期によって適した品種が違い、それぞれ特徴があります。7月のふるさと食材の日に提供して頂く「レノン」という品種には、果肉が固めて糖度が高く、日持ちするといった特徴があるそうです。

#### ② 「接ぎ木」でおいしいメロンを育てる

おいしいメロンの品種でも、育てる途中で病気になってしまうと収穫できません。そこで、病気につよくおいしいメロンを育てるために、2つの苗を切り口でつなぎあわせる「接ぎ木」を行います。伊藤さんの畑では、病気につよい品種の苗と味のよい品種の苗を接ぎ木して育てています。

#### ③ メロン農家さんの相棒!



メロンには雌花と雄花があり、実を付けるには花粉を運んでくれる虫が必要です。そのための農家さんの相棒が…ミツバチ! たくさんのミツバチをビニールハウスに放って、花粉を運んでもらいます。ミツバチはメロンを実らせるためには必要不可欠です。農家さんの力だけでなく、自然の力も必要なのですね。

